

水浴場の環境放射線モニタリング調査結果  
(平成 26 年度第 3 回目：遊泳期間中) について (速報)

平成 26 年 8 月 15 日

原子力災害現地対策本部 (放射線班)

福島県災害対策本部 (原子力班)

(調査結果の概要)

いわき市四倉、勿来の地上 1 m の高さにおける空間線量率は「0.05～0.06 マイクロシーベルト毎時」であり、福島第一原子力発電所事故前における県内の自然放射線のレベルと「同程度」でした。

同地点における海水中の放射性セシウム濃度は、全て「不検出」でした。

また、海水中の全ベータ放射能は「0.02～0.03 ベクレル/リットル」であり、福島第一原子力発電所事故前の値と比較して「同程度」でした。

さらに、7 月 22 日に採水した海水中のトリチウムは「不検出」でした。

- 1 調査期日 平成 26 年 8 月 4 日 (月)
- 2 調査地点数 2 地点 (いわき市四倉、勿来)
- 3 調査結果 (※は第 2 回 (平成 26 年 7 月 22 日) の四倉と勿来の測定結果)

(1) 海岸の空間線量率 (地上 1 m)

0.05～0.06  $\mu\text{Sv/h}$  (※0.05～0.06  $\mu\text{Sv/h}$ )

(2) 海水中の放射性セシウム濃度 (セシウム 134 + セシウム 137)

不検出 (※不検出)

(3) 海水中の全ベータ放射能

0.02～0.03 Bq/L (※0.02～0.03 Bq/L)

(4) 海水中のトリチウム濃度

**不検出** (※不検出)

(参考)

1 事故前における県内の自然放射線のレベル

空間線量率：0.02～0.13  $\mu\text{Sv/h}$  (地上 1 m)

「平成 22 年度 県内の放射線レベル調査 (福島県)」より

2 水浴場開設の判断を行う際に考慮する放射性物質濃度の目安

放射性セシウム (セシウム 134 + セシウム 137) : 10 Bq/L

「水浴場の放射性物質に関する指針について (環境省、平成 24 年 6 月改訂)」より

3 事故前に県が測定した県内の海水中放射能濃度レベル

全ベータ放射能：不検出～0.05 Bq/L

トリチウム : 不検出～2.9 Bq/L

「原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 (福島県、平成 13～22 年度)」より

(問い合わせ先 放射線監視室 024-521-1917)

**黄色網掛け部分**は 9 月 19 日に公表したものを追加記載しています。

水浴場の環境放射線モニタリング調査結果（平成26年度第3回目：遊泳期間中）（速報）

平成26年8月15日  
福島県放射線監視室

No.	水浴場名	市町村名	区分	海岸の空間線量率（ $\mu$ Sv/h）			海水の放射性物質濃度（Bq/L）						
				調査日	地表面 （地上1cm）	地上50cm	地上1m	調査日	採水位置	放射性セシウム		全 $\beta$ 放射能	トリチウム
										Cs-134	Cs-137		
1	四倉	いわき市	海水浴場	8月4日	0.06	0.06	0.05	8月4日	表層	不検出	不検出	0.02	不検出
									下層	不検出	不検出	0.02	不検出
2	勿来（南）※	〃	〃	8月4日	0.07	0.06	0.06	8月4日	表層	不検出	不検出	0.02	不検出
									下層	不検出	不検出	0.03	不検出

放射性物質濃度が検出限界値未満の場合は「不検出」と記載（検出限界値は放射性セシウムが1Bq/L、トリチウムが0.4Bq/L程度）

※No.2勿来についてはエリアが広い為、前々回まで（北）と（南）の2地点で測定したが、今年度は北エリアが開設されないため、今回は対象外とした。

黄色網掛け部分は9月19日の公表分を追加記載したものです。

# 水浴場調査地点

凡例：水浴場名

